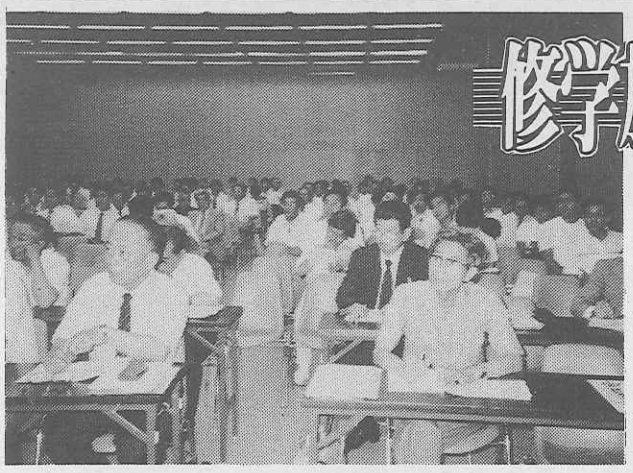
修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
東京都千代田区西神田
2丁目8－7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）3－36337

修学旅行・自然教室・野外活動研究会

後援 文部省、近畿二府四県教育委員会



研究会場（大阪市教育青年センター）

人間性豊かな生徒を

修学旅行固有の教育的価値を明確に

いま、なぜ自然教室の教育か、その必要と実践

近代教育百年の歩みにおいて修学旅行が青少年の育成の上に果してきた意義は大きく、現在国の教育基準である学習指導要領において、明確に位置づけられているが、その教育性を改めて見直すとともに、本年度文教行政上の重要事業である「自然教室」の教育について、正しい理解を求め、この教育活動の趣旨に沿うよう努めた教育実践の記録による「研究発表」を行い、野外教育活動の今日的課題をテーマに七月六日、大阪市において研究会が開かれた。

財団法人全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）、近畿地区公立中学校修学旅行委員会（南裕之会長・大阪府河内長野市立千代田中学校長）主催の「修学旅行・自然教室・野外活動研究会」が、七月六日大阪市教育青年センター七階ホールで開催され、三百名を超える参会者に多大の感銘を与えて盛会裡に終了した。

研究会は、創立以来二十有余年、終始一貫して修学旅行の教育的水準の向上を使命としてきた(財)全国修学旅行研究協会（全修協）と、近畿地区の公立中学校修学旅行に関して先導的立場にある近畿地区公立中学校修学旅行委員会（近修委）とが主催し、人間性豊かな児童、生徒の育成をめざして、「今後の修学旅行・自然教室・野外活動を考える」をテーマに開催されたもので、文部省をはじめ大阪府・京都府・兵庫県・和歌山県・滋賀県・奈良県の各教育委員会の後援のほか、関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行委員会（本田勝彦会長・名古屋市立伊勢山中学校長）の協賛を得、公立小・中学校校長、教頭・教諭、教育委員会指導主事等の教育行政担当者、その他修学旅行関係者が、地元近畿をはじめ、遠くは北海道・九州まで全国から参会した。

会は十三時三十分「旅には人生の出会いがある。私達は新しい出会いを求めてここに参集した。」との、司会の近修委孝田有禅連営委員（奈良市立平城西中学校長）の心に残る一言で開始された。

先ず近修委南裕之会長が挨拶に立ち、修学旅行・自然教室・野外活動が児童生徒の人間形成に寄与する教育的重要性を強調し、文部省をはじめ近畿地区二府四県教育委員会の後援に対する謝意を表し、また本研究会開催にあたって、それぞれの分野で協力された各位に対する感謝の意を述べた。

続いて全修協山本種一理事長から、創立以来二十有余年一貫して修学旅行の質的向上をめざしてきた全修協の使命と、本研究会を主催するにあたっての目的意義、特に夏休み前の野外活動の最盛期を控え、学校現場で活用できる有効な指針を与えられたいと要望し、文部省をはじめ各府県教育委員会ならびに本研究会開催に際して支援された各位に対する謝辞を述べて挨拶とした。

来賓として近畿二府四県教育委員会を代表し、大阪府教育長黒田幸雄氏の祝辞を、教育次長住羽地米治氏が代読し、二十一世紀を背負う今のこどもの教育は極めて重要であり、大阪府も少年自然の家を来年四月から貝塚市に開設し、要望に応えたい。本研究会の成功を期待する－と挨拶した。

ついで研究発表に移り、教育実践報告「日常教育活動を生かした本校の校外学習」を、兵庫県西宮市立塩瀬中学校教諭山城真氏が発表した。

発表に先立ち、近修委土居克己副会長（西宮市立深津中学校長）から、研究発表に際しての研究実践校の取り組みならびに発表者の紹介があり、続いて山城教諭から、別掲の内容で、実践の結果を数十枚のスライドを利用して実証的に発表し、参加者に多大の感銘を与えた。

(1)西宮市では昭和四十六年度から文部省の自然教室推進事業の趣旨と同様の考えで、「転地学習」を実践してきた。

(2)塩瀬中学校では、西宮市の野外活動の組織の中で、一年次の転地学習、二年次の野外活動、三年次の修学旅行を位置づけ、三ヵ年を通して一貫した見通しをもって校外学習を行ってきた。

(3)同校では、二年前、校外学習全体の見直しを行い、一年次の転地学習を二泊三日から三泊四日に変更した。その結果、中二日の活動日を確保でき、二泊三日では得られなかった教育効果をあげることができた。

発表者は、この「転地学習」の実践結果を、生徒のナレーションを加えた数十枚のスライドによる生活の紹介を交えて、整理された内容を順序だって場面転換も円滑に説明した。

同校は平素から全校一体の教育活動にあたっており、この研究会にも学校長毛戸和之氏が出席して学校経営全体にかかわる質疑に備えて待機したほか、スライド映写機の操作に協力した同僚職員との息もぴたりと一致し、全校体制でのすぐれた研究発表であった。

つぎに講演が行われ、「学校教育の今日的課題と修学旅行・自然教室」と題し、文部省教科調査官高橋哲夫氏が演壇に立ち、学校教育の荒廃が憂慮される今日、人間性豊かな生徒を育てるための教育の根本として、自己実現への自己指導力を培うことの重要性を説き、教育指導上の諸問題を考究する上での教育原理の解明を行った。

その学問的原理にもとづく自然教室・修学旅行の意義の再確認と研究実践の方向を明示された。

内容は学究的で格調が高く、日常なにげなく見過ごしている実践活動を高い次元から理論的に掘り起し、教育実践を反省し確信にみちたものとする重要な指針を示された。

引き続き研究協議（別掲）が行われ、近修委谷田隆運営委員長（宝塚市立中山五月台中学校長）の閉会の辞で会を終了した。

とくにこの研究会に若い先生方の参加が多かったことは、今後の活躍に大きな期待を持たれることであった。

◇

三地区修旅連総会ひらく

問題行動特別委を推進

関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会（本田勝彦会長・名古屋市立伊勢山中学校長）の第二十二回総会が、七月七日大阪府箕面市で開かれ、五十八年度会務報告と五十九年度役員選出、事業計画の検討が行われた。新会長には宮嶋明氏（関東地区公立中学校修学旅行委員会会長・水戸市立第二中学校長）を選出、問題行動特別委員会を中心に据えた本年度の活動内容を満場一致で承認し、今後の三地区の充実発展を期した。

今回は特に来賓として文部省教科調査官高橋哲夫氏が出席され、祝辞をいただくとともに、終始熱心に傍聴された。

午前九時、副会長南裕之氏（河内長野市立千代田中学校長）が開会を宣し、会長本田勝彦氏、顧問山本種一氏（財全修協理事長）の挨拶の後、本田会長が議長となり議事に入った。

五十八年度会務報告、続いて五十九年度役員を別記のとおり選出し、議長を宮嶋新会長に交代して、各地区修学旅行委員会・の会務報告と問題協議が行われ、特に近畿地区から提起された修学旅行における航空機利用について論議が集中した。時期尚早、賛成、静観等の各意見があり、議長の各地区で継続研究するとの発言を全員が了承した。次いで本年度事業計画が提案され、以下の五項目が原案どおり承認されて、十一時すぎ佐々木達三氏（長岡京市立長岡中学校長）の閉会のことばで終了した。

(1)問題行動特別委員会の継続
(2)同委員の改選　(3)同委員会を九月二十八日名古屋市で開催
(4)同第二次実態調査と研究発表（会場三重県）(5)同規約の一部改正（不要字句の削除）

本年度の役員および委員はつぎのとおり（各中学校長、敬称略）

会長＝宮嶋明（関東・水戸二中）
副会長＝本田勝彦（東海・伊勢山中）南裕之（近畿・千代田中）
運営委員＝高橋尹敏（関東・喜沢中）山田輝夫（東海・長森中）谷田隆（近畿・中山五月台中）
顧問＝山本種一（全修協理事長）
参与＝白滝末紀（同専務理事）
事務局長＝糸賀英一（同修学旅行部長）
問題行動特別委員会委員長＝本田勝彦　副委員長＝高橋尹敏、佐々木達三　委員＝澤田克郎（関東・加治中）稲葉幸雄（関東・白井中）山中貢（東海・明和中）植山昇（近畿・箕面六中）土居克己（近畿・深津中）

福井県支部長に加藤一栄氏

加藤一栄氏

財団法人全国修学旅行研究協会の福井県支部長に、六月一日付で加藤一栄氏が就任した。

加藤氏は、昭和二十年福井師範学校本科を卒業、同年から、志比小学校を振り出しに、小・中学校教諭、教頭、校長を歴任、現在、志比小学校長、福井県学校生活協同組合理事長の職にある。

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。

（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

風紋

「森林浴」ということばが最近のブームになっている。事実、目に柔かな樹々の緑、踏みしめる大地の温かさ、小鳥のさえずり、樹間の静けさ、風にゆれる葉音、清浄な酸素を胸いっぱい吸った一日の森林浴は身心ともに快い疲れと爽快さを覚える▼ひとたび森に入ると、樹木から発散される一種独特の香りテルペン類（フィトンチッド殺菌作用）は抗菌性もあり抗生物質に比べて弱く、急速には効果は現われない。回数が多いほどよいといわれている▼昔、フランスの田舎では子どもが病気になると母親は森へ連れて行き、大きな樹の下にしばらく座らせておく。木の精が子どもに移って病気が治るという民間信仰がある。また「今でも週に一度でも森を歩く人たちの間では、都会から一歩も出ない人に比べて胃かいようや不眠症が大変少ない」とフランスの植物療法家モーリス・メッセゲ氏は語っている▼筆者も同じような経験をもつ。二十数年前胃けいれんに悩まされた。ある機会に探石の趣味を覚え、毎日曜日森に入り、回数が重なると、さしもの胃痛はおさまらず安眠もでき、少々のカゼもなおった。それが信仰ともなり今も続けている▼ヨーロッパの森林浴視察団の報告（朝日6月19日付）によると、バーデンバーデンの森は樹齢百数十年の巨木、四百の遊歩道、雨やどりのあずま屋、一日平均一万五千人が森に入り、パノラマコース、スポーツコースなど、飲料水の泉、バーベキュー用のかまど、山菜薬草採りは片手一杯が守られている▼ありがたい健康法はいろいろと喧伝されてはいるが、趣味と結びつかないと長続きしないと思う。

信頼される旅づくり

こんな笑顔、残してあげたい。

修学旅行

近畿日本ツーリストは、生徒のみなさんに素晴らしい修学旅行を…の願いから、教育映画の制作に取り組んでいます。現在のライブラリーは、中学・高校生を対象とした『学習の旅シリーズ』全16篇。そして社会・文化・歴史・教育・観光・自然など、幅広い分野から制作された『ツーリスト映画シリーズ』全15篇（国内10・海外5）。いずれも修学旅行の事前指導、学習教材としてご活用いただけます。ツーリストはこのような文化活動を通じて、教育・一般社会のみなさまにお役に立つよう、努力を続けています。

◎ツーリスト映画リスト　※修学旅行の事前指導や学習教材に、どうぞお気軽にご利用ください。

学習の旅シリーズ			ツーリスト映画シリーズ（国内）			ツーリスト映画シリーズ（海外）		
題名	上映時間	受賞	題名	上映時間	受賞	題名	上映時間	受賞
北海道・道東	20分		北海道	29分	文部省選定	ヨーロッパの旅	30分	日本産業映画奨励賞（第14回）
北海道・道南	20分	文部省選定	京都の庭園	26分	文部省特選			
東北	20分		京都の川	34分	文部省特選・芸術祭大賞（46年）	大いなるアメリカ	30分	
日光	15分	文部省選定				アメリカ西海岸の旅	30分	
東京	15分		大和の塔	38分	文部省選定	ハワイの休日	33分	
富士箱根	20分	文部省選定	大和の石	25分	文部省選定・文部大臣賞	東南アジア	30分	
信州	20分	文部省選定						
京都	20分	文部省選定	大和の道	25分	文部省選定・文部大臣賞			
奈良	20分	文部省選定						
伊勢志摩	22分		南紀	28分				
山陽山陰	23分	文部省選定	瀬戸内海	31分	文部省選定			
九州やまなみ	20分	文部省選定	沖縄の心	31分	文部省選定			
九州西海	20分	文部省選定	うつわ（食器の文化）	41分				
南九州	20分	文部省選定						
光あふれる沖縄	21分							
スキースクール	22分	文部省選定						

近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号

生徒指導と特別活動・修学旅行〈12〉

学校教育の今日的課題と修学旅行・自然教室

文部省教科調査官　高橋哲夫

一、学校教育の現状と課題〈特に生徒の問題行動（＝学校教育に問題があることのシグナル）からみた場合〉

(1)最近の生徒の問題行動の特徴は次の通りである。

①反社会的行動　○従来の窃盗・万引に加えて、「占有離脱物横領」（駅前放置自転車の無断乗り捨て）の増加が顕著――規範意識の乏しさ、欠如　○校内暴力は減少傾向にあるが、生徒の対教師暴力など、教育の根本を揺がすものである―教師と生徒の信頼・心服関係の崩壊

②非社会的問題行動　○いぜんとして増加傾向の登校拒否に代表される対人関係不適応や「いじめられ」など、表面にあらわれにくいことからも、今後大きな指導上の課題である―非社会性

③学習の遅れがちな生徒の増加

④女子生徒の問題行動の増加

○性に関わるものと、それ以外のものとに二分される。基本的な欲求充足が不十分な生徒が、その満足を求めて誘惑され、暴力団等の被害にあう場合と、金銭欲もからみ、好奇心から逸脱行動に走る場合とである　○万引や喫煙・シンナー、異装など、男子並の非行化傾向、特に同性生徒への陰湿な暴行が顕著。

⑤高校生徒の中途退学　○数年来増加しているが、進路不適・学業不振などが理由とされ、退学のきっかけは高校にあるが、それ以前に、下地形成がなされており、小・中学校の生徒指導上の課題といえる。

(2)これらの問題行動が訴えるものとして、次のような学校教育の課題があげられる。

①生徒のパーソナリティと家庭環境　一般的に、主体性や耐性の乏しさ・自己顕示性・神経過敏、また、無気力や意欲の乏しさなどが特徴的であり、親の子供への養育態度も、過保護・過干渉などが指摘される。

②教師と生徒、生徒相互の人間関係　日頃の友人関係や教師との心理的な交流が十分に行われておれば、教師への不信や仲間いじめ、更に学校不適応なども生じないであろう。

③指導の内容や方法　教材を精選し、生徒個々の実態に応じた指導が工夫されておれば、学習の遅れも防げるし、また、個性の伸長も可能であり、問題行動に陥ることもない。

二、生徒指導を中心とした、諸課題への対応の経過

昨年二月の中学生にかかわる二つの事件を契機に「最近の学校における問題行動についての懇談会」がもたれ、以後、その提言に基づいて、文部省を中心としての全国的な取り組みが行われてきたといえる。

(1)生徒指導を中心とする学校運営総見直しのための参考点検項目を付しての文部省通知

(2)教育相談活動推進事業の開始

(3)道徳教育の見直し

(4)「出席停止」の在り方についての通知

(5)進路指導の改善についての通知

(6)教員養成及び免許制度の改善

(7)中教審教育内容等小委員会の審議経過報告

(8)「自然教室」事業の開始

(9)高校入学者選抜の改善の検討会議（報告）

これらのなかでも、「審議経過報告」は今迄の我国における教育の問題点の総まとめであるとともに、今後の改善点や教育の方向を示したものであり、特に「今後重視されなければならない視点」で示された「自己学級指導はその成立経緯からも、生徒指導の中心的領域であり、また、学校行事の一つである修学旅行でも、生徒指導の機能が十分に働いてこそ、そのユニークな教育的価値の達成が果される。

自己指導力育成の援助過程は〈自己受容→自己理解（自己概念の修正）→洞察（自他の関係認知・今後の見通し）→自己決意（主体的歩みだし）→自己実現〉のプロセスである。当然のことながら、この過程は修学旅行を通じての人間形成においても重視される。

四、課題に応える修学旅行の現状と課題

(1)修学旅行固有の教育的価値を明確に

学校行事における「旅行的行事」の内容は、今後ますます多様化されると思われるが、それだけに、修学旅行の固有性格である、各教科・道徳・特別活動の全領域にわたる総合的な学習活動があること、在学中に一度の学習成果の総仕上げとしての、まさに「修学」学習であること、などを明確にしておく必要がある。

(2)「自我関与」の度合を高め、課題解決の学習過程を重視すること

中学校入学後なるべく早期に修学旅行の意義や目的を理解させるとともに、旅行先なども生徒の希望や関心などを十分にとりあげて決定し、生徒に修学旅行を「わがこと」として積極的に取り組む基本的態度を身につけさせたい。

また、旅行先の自然や文化、人や風土についての、学級のみならず生徒一人一人の学習課程を明確にさせ、〈諸資料→仮説（見通しの設定）→検証〉の過程を通じての学習の喜びを是非体験させ、豊かな人間形成に役立てたい。

五、課題に応える「自然教室」

(1)「自然教室」が、特に、いま、なぜ、必要か、の教育的意義を十分に把握したい。

昨年来の生徒指導を中心とする学校教育の在り方の総見直しの一環として生れた事業であり、現今の教育課題に直接応えるための総合的教育活動である。

既に実施された学校の評価資料からも検証されているが、たとえば、教師と生徒、生徒同志の人間関係の深まりや自然の中での学習、生活体験による感動など、日常の学習活動では得られない教育効果をもたらしている。

(2)「五泊六日」の教育的意義

先進校の諸事例でも明らかなように、校外集団宿泊指導で本来の趣旨・目的を達成するためには、どうしても最低不可欠の日数が必要となる。寝食を共にしての人間関係の深まりや、問題解決的・問題提示的な学習法や態度を自然体験を通じて身につけるためにも、そして究極的に自己指導能力の育成につながる学習活動の充実のためには、従来実施率の多かった「二泊三日」からの脱皮を是非はかりたいものである。

高橋哲夫先生からは、七月六日の研究会のご講演、七日の関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会の研究協議の際にご指導ご助言をいただいた。

本文は、それをおまとめになったもので、当日出席された方々ともども、全国の教育関係者のご研究に供したいと思う。（編集部）

◇

講演する高橋教科調査官

研究協議

提示問題に対して活発な質疑応答

山城真塩瀬中学校教諭の研究発表（教育実践報告）と高橋哲夫文部省教科調査官の講演のあと、研究協議が行われた。

提起された問題の主なものは

①塩瀬中の転地学習の事前指導のとり方とその時間数、また一般的に、修学旅行、野外学習の事前指導について

②転地学習の際の保護者への説明会はどのように行っているか

③大規模学校の場合の自然教室、野外活動の困難点とその克服について

④自然教室推進事業は文部省として、長期継続とするのか、短期のものであるのか

などについて活発に質疑応答、協議が行われた。

①②について、塩瀬中の実際を報告し、「総合的に行っているので、どの部分が事前指導であるか、見方にもよるが、実行委員会が土曜日の放課後等、かなり丁寧に行っており、これだけでも延べ十時間ぐらい行っている」とのことであった。

高橋調査官から、修学旅行、自然教室等の事前学習について、「ゆとり」の時間の活用、また、岡山県玉野市立日比中等の全国的な事例について指導、紹介があった。

②については、塩瀬中の場合、特にやらないが、入学式の時によく話をし、あとは学年通信（詳細なもの）で、保護者の協力を得ている。修学旅行の説明会は時間をかけてやっている、とのことであった。

③の大規模校の実施にあたっての公営宿泊施設の不足など、自然教室の教育についての困難点を訴える声に対して、「分割」の方法、「学級単位」など意見が出されたが、今後の実践研究にまつところが多かった。

④については、高橋調査官から、この事業の教育的重要性にかんがみて、十年単位の長期的事業と考えられると所信の表明があった。

暑中お見舞申しあげます

昭和五十九年　盛夏

財団法人　全国修学旅行研究協会

理事長　山本種一
本部長（専務理事）　白滝末紀
常務理事　永井熙
同　村山助雄
理事　高田治郎
同　成瀬幡治
同　魚谷時太郎
同　辻原弘市
同　岡木清
監事　田尻一雄
同　西山文男
副本部長（事務局長）　前田寛
外職員一同

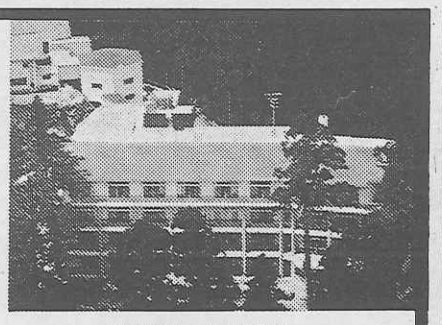
眼下に芦の湖、ひろがる湖尻高原。
静寂のなかに憩いのひととき―。

〈修学旅行の専用旅館〉
〒250-05 神奈川県箱根町湖尻高原
箱根高原ホテル
電話0460－4－8595（代表）

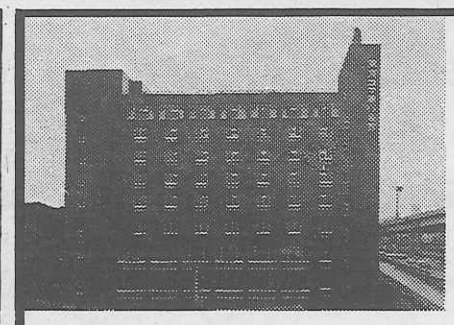
新しい修学旅行の幕あけ！
洋上体験学習

貸切専用外航純客船　国内、海外へ
クルーザー
さんふらわあ7で航く修学旅行
●阪神－別府直行大型フェリー（毎日1便）●阪神－別府航路（毎日2便）
★貸切船こはく丸（3,000トン）もご利用ください。
お問合せは
関西汽船
●営業部営業課：大阪市北区梅田1－1　☎（06）344－7031
●東京支社：東京都中央区八重州1-4-14　☎（03）274－4273
及び各支店、営業所、旅行代理店へ

修学旅行のお宿に
全館を開放
■延暦寺会館本館
■別館比叡
■延暦寺会館第1別館
■延暦寺会館第2別館
〈収容600名様〉
☆素晴らしい琵琶湖の夜景
☆根本中堂で早朝の座禅
☆スッキリした気分で次のコースへ
☆頭のよくなる精進料理
☆夜間は講話や映画上映を無料でご奉仕



〈国際観光旅館〉
比叡山　延暦寺会館
TEL　0775－78－0047・0554
TELEX　5464－917



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。
東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。
ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL（03）585－1046（代表）
東京　コマ旅行会館